

3 自然のはなし



↑ 天野川

わたしたちが住んでいる^{ひらかたし}枚方市には、
 どんな自然^{しぜん}があるのでしょうか。
 みんなで考えてみましょう。



分類	令和4・5年 自然環境調査結果	
ほ乳類	10科	14種
鳥類	38科	89種
両生類	4科	7種
は虫類	8科	12種
淡水魚類	11科	24種
昆虫類	203科	878種
植物	141科	793種
合計	309科	1,817種

←令和4・5年の枚方市自然環境調査結果
 大阪府全体の8,569種^{しゆ}（平成12年調べ）と比べてみると、枚方市で大阪府の約21%の動植物種^{かくにん}が確認されていることがわかります。

4
年
生

5
年
生

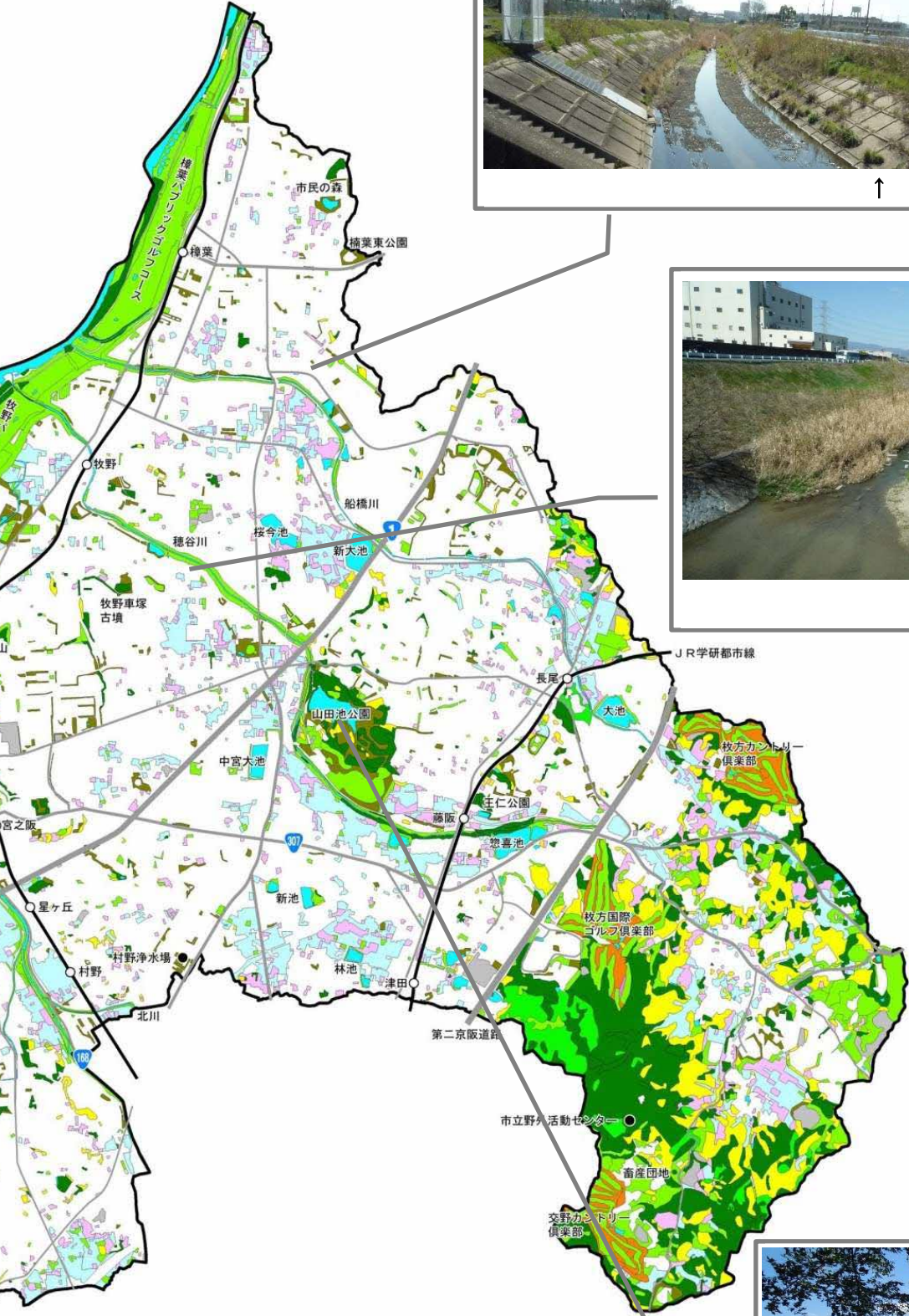
6
年
生



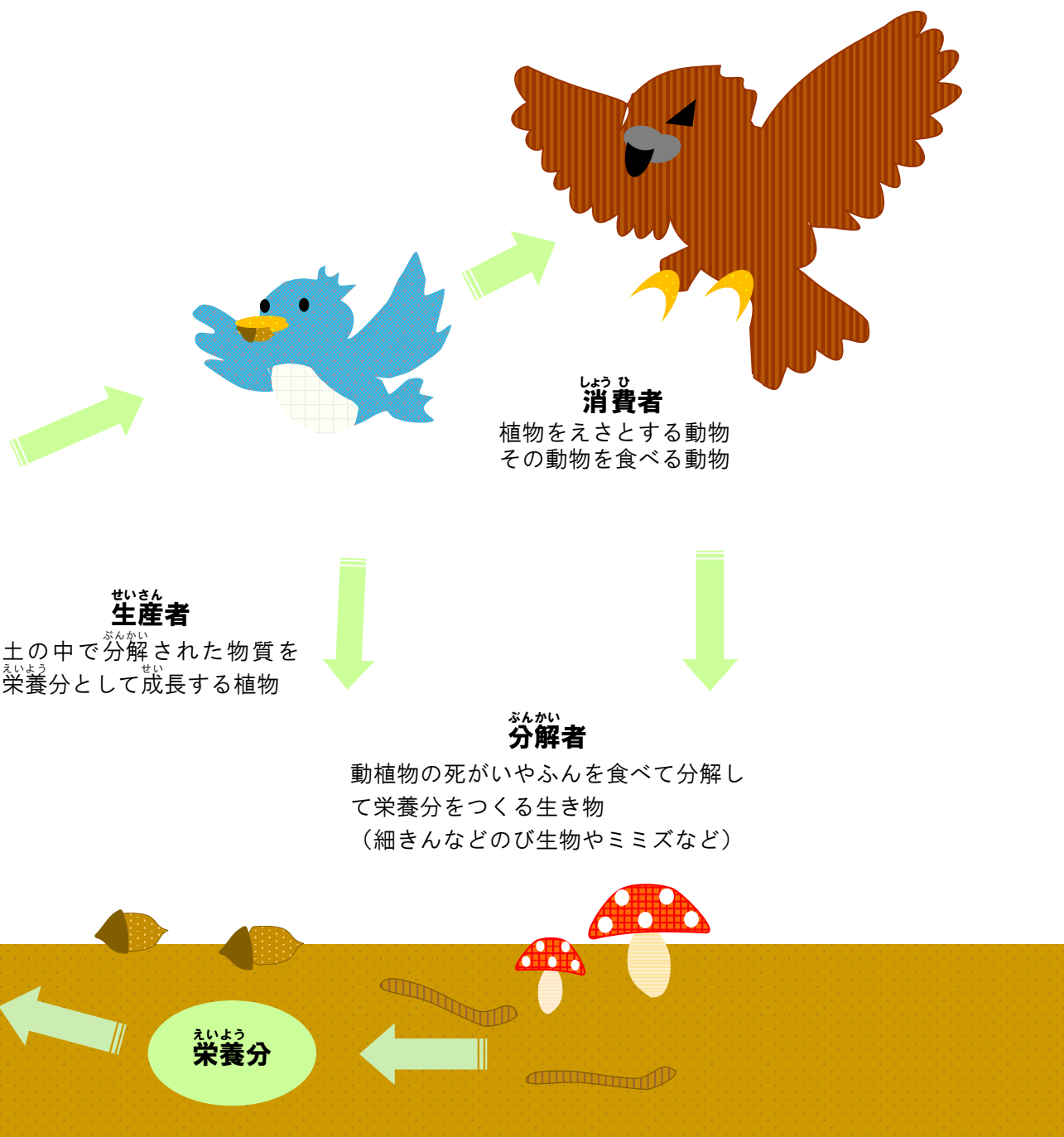
↑ 船橋川



↑ 穂谷川



↑ 山田池公園



↑ 自然のつながりのしくみ

また、光合成によって成長した植物を動物が食べ、その草食動物を肉食動物が食べます。そして、動物のふんや落ち葉などを土の中の虫やび生物が食べ、そのふんや分解物が土を豊かにして植物を育てています。このような自然のつながりによって、私たち人間や動植物は地球上の自然とバランスをとりながら生きています。

こうした地球上のバランスが、私たち人間の活動によって、こわれはじめていることがわかってきました。

枚方市からのお願い

身近な自然を探してみよう

わたしたちのまわりには、どのような自然が残っているのでしょうか。家の近くや学校には、どんな草花や虫がいるのでしょうか。

一人ひとりが、まわりにきょうみを持つことが自然を守る第一歩です。

鳥を観察するコツ

① 見つけてみよう

電線や家の屋根、水辺、木の枝、公園のしげみの中、畑や田んぼなど、いろいろ探してみましよう。

② 見分けてみよう

大きさ、体型、色やもようをよく見ましよう。スズメより大きいかなど、知っている鳥と比べると見分けやすくなります。

③ 聞き分けてみよう

しずかな公園や林の中で、まずは3分間耳をすましてみましよう。

(2) 枚方市にすむ生き物

枚方市には、たくさんの生き物がくらしています。どのような生き物を見ることができるでしょうか。

① 枚方市内で見ることができる鳥

枚方市内には、いろいろな鳥に出会える場所がたくさんあります。季節によってまわりにいる鳥がちがうことを知っていましたか。

長いきよりを移動して、季節によって住む場所を変える渡り鳥がたくさんやってきます。私たちの住む枚方市に冬を過ごすために飛んでくる鳥もいれば、春になって子育てのために帰ってくる鳥もいます。近くの公園にも、いろんな鳥がやってきます。羽の色や鳴き声から鳥の種類がわかるかもしれません。

私たちのまわりには、どんな鳥がいるのか観察してみましよう。

さがしてみよう

こんな鳥がまわりにいるかもしれないよ



メジロ

目の周りが白い
花のミツを吸う



ヒヨドリ

ピーっと鳴く
くだものが好物



ツバメ

のき下に巣を作る
春～夏に見られる



ジョウビタキ

ヒッヒッと鳴く
秋～冬に見られる



ダイサギ

首とあしが長い
白くて大きな鳥



ミサゴ

魚を食べるタカの仲間
かもめのように飛ぶ



カワセミ

一直線に飛び、背中が
光って見える



コゲラ

日本一小さいキツツキ
茶色に白い点もよう

② 枚方市内で見ることができる魚

枚方市には、船橋川、穂谷川、天野川の3つの川があり、枚方市内を南東から北西に流れ、淀川へとつながっています。これらの川には、多くの魚や水生生物がすんでいます。

どんな生き物がすんでいるのか調べてみましょう。

さんこう

水生生物

水中・水面・水辺にすむ生き物のことを言います。

エビや貝、トンボの幼虫などいろいろな生き物がいます。

水質によってすんでいる水生生物がちがいます。

さがしてみよう

枚方の川で見ることができる魚



ドジョウ科
ドジョウ



メダカ科
メダカ



キュウリウオ科
アユ



コイ科
カマツカ

やってみよう

川の生き物を調べてみよう

準備

あみ、バケツ、虫めがね、長ぐつ、ゴム手袋、ビニール袋、記録紙、えんぴつ、図かん、地図

1

調査する場所を決める。

- ・水の深さが20~30cm くらいのところ
- ・川の中に20cm くらいの石が多いところ

2

石をそっと持ち上げる。

- ・流れ出す生き物をあみで受ける
- ・石についている虫やあみの中の生き物をバケツに入れる

3

虫めがねで観察して、名前を調べる。

- ・つかまえた生き物は川にもどす

注意：川へは必ずおとなといっしょに行こう



↑自然観察会(毎年7月に天野川で開催しています)



↑ 枚方市のみどり(①市民の森、②田んぼのみどり、③以楽公園)

(3) みどりの種類とはたらき

調べてみよう

「みどり」には、緑色の草や木だけではなく、花や水辺もふくまれるよ

枚方市 みどりの種類と働き

検索

枚方市には、公園や農地、^{さとやま}里山、お寺や神社にある林や庭の花だんなど、いろいろな種類の「みどり」があって、わたしたちはいつも「みどり」を^{りよう}利用したり、目にしたりしています。みんなの家の近くには、どんな「みどり」があるかをさがしてみましよう。

枚方市の里山

里山とは、人々が生活するために利用しながら守ってきた森や田んぼ、ため池などのまとまった^{いき}地域のことをいいます。

枚方市では東部地域に^{のこ}里山が残されています。



↑ 里山の風景(森や棚田)



↑枚方市のみどり(左:香里ヶ丘の並木、右:ニッペパーク岡東中央(岡東中央公園))

「みどり」にはたくさん大切なはたらきがあります。「みどり」のはたらきと効果について考えてみましょう。

はたらき① 気温を調節し、空気をきれいにする

葉っぱから水を蒸発させて気温を調節します。また、よごれた空気をきれいにします。

はたらき② 生き物のすみかになる

いろいろな生き物のすみかとなったり、えさになったり、生き物たちのくらしを支えています。

はたらき③ 雨水を吸収する

森の土が雨水を吸収して地面の中にたくわえ、ゆっくりと流れますので、こう水などが起こりにくくなります。

はたらき④ 景色を美しくする

みどりは季節によって、いろいろな姿を見せてくれます。まちの景色にうるおいが生まれます。

効果① 気持ちがやすらぐ

みどりの中を歩いたり、ベンチに座って休んだりすると、気持ちがやすらぎ、ほっとします。

効果② 体が元気になる

公園や広場で、運動したり遊んだりすることで、体が元気になる、健康をたもつことができます。



やってみよう

落ち葉や木の実で工作してみよう

準備 ビニール袋、ダンボールや画用紙、ボンド、図かん

- 1 好きな色や形の落ち葉や木の実を拾おう。
・虫がついていないか気をつけよう
- 2 ダンボールや画用紙にボンドではり付けよう。
・はさみやパンチがあれば型ぬきしてみよう
- 3 ボンドをかわかす。
・台紙のうらがわにひもをつけたら、かべにかざれるよ

こうよう
紅葉した葉っぱや、押し花を使うと、ずっと色が変わらないよ。



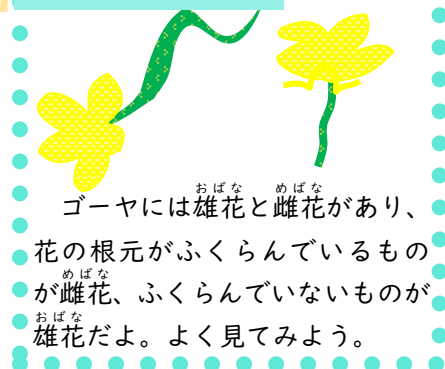
やってみよう

みどりのカーテンを作ってみよう

準備 ゴーヤの苗、土、小石、プランター、支柱、ネット、ひも

観察ポイント

- 1 プランターの底に小石を入れ、土を入れる。
・あれば肥料や、卵のカラ、野菜くずを土に混ぜてみよう。
- 2 ゴーヤの苗を植える。(5月ごろ)
・2つ以上植えるときは30cmくらい間をあけよう。
・根元を手で押さえて、少しだけ水をあげよう。
- 3 朝夕たっぷり水をあげる。
・お米のとぎ汁をあげると肥料がわりになるよ。
・葉っぱが黄色くなったら、水が足りない印だよ。
- 4 作りたいカーテンの大きさに合わせてネットを立てる。
・ツルがのびてくる前に支柱とネットを立てておこう。
- 5 ツルが出てきたらネットにツルをやさしくからませる。
・やさしくひもで結んであげよう。
- 6 ネットの半分くらいの高さまで大きくなったら、一番太いツルの先を10cmほど切る。
・ツルの先を切ると、つるが枝分かれしてのびるから葉っぱがたくさん茂るよ。
- 7 実がなったら収穫する。
・収穫しないと、実は黄色くなり、やがて赤いドロドロに包まれた種が落ちてくるよ。
この種を置いておくと来年また育てることができるよ。



↑ ゴーヤの「みどりのカーテン」



↑ ウシガエル
(特定外来生物)



↑ アライグマ
(特定外来生物)



↑ セアカゴケグモ
(特定外来生物)



↑ オオクチバス (ブラックバス)
(特定外来生物)



↑ アメリカザリガニ
(条件付特定外来生物)



↑ ミシシippアカミミガメ
(条件付特定外来生物)

(4) 生き物たちのつながり

生き物たちが支えあい、つながりあっていることや、すべての生き物にちがひがあることを「**生物多様性**」^{せいぶつたようせい}とといいます。しかし、今、そのバランスがこわれはじめています。

昭和50年(1975年)以降、世界では毎年4万種の生き物が絶滅しているといわれています。また、絶滅の危機におびやかされている生き物の種類がどんどん増え続けており、生き物たちのつながりがこわれかけています。その原因のひとつが、海外からペットなどとして持ち込まれて、捨てられたり、逃げたりして、野生化した生き物(特定外来生物)だと言われています。

こうして野生化した生き物の中には、農作物をあらしたり、人家に入ってきたりして、私たちの生活に被害をあたえる動物もいます。

野生の鳥や動物にえさをあげないで

わたしたちの周りには、はとやすずめなど、たくさんの野生の鳥や動物がいて、みんな自分で食べるものを見つけてくらしています。

わたしたちがえさをあげてその数が増えすぎると、自然のバランスがくずれてしまいます。

数が増えることで、わたしたちの生活に悪い影響をおよぼすことがあり、駆除しなければならぬことが出てきます。

野生の鳥や動物たちのためにも、えさをあげてはいけません。

さんこう

とくていがいらいせいぶつ 特定外来生物

生き物のバランスや、人のくらしに大きな影響を与える外国から来た動植物。

飼うのが禁止されるほか、生きたまま運ぶことも禁止されています。

じょうけんつきとくていがいらいせいぶつ 条件付特定外来生物

捕まえて、ペットとして飼うことはできますが、野外に放したり、逃がしたりすることは禁止されています。責任を持って寿命を迎えるまで大切に飼いましょう。